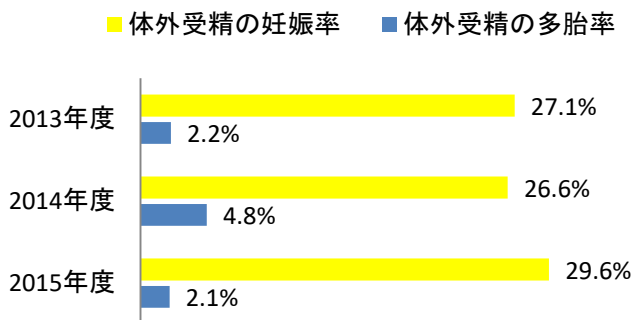
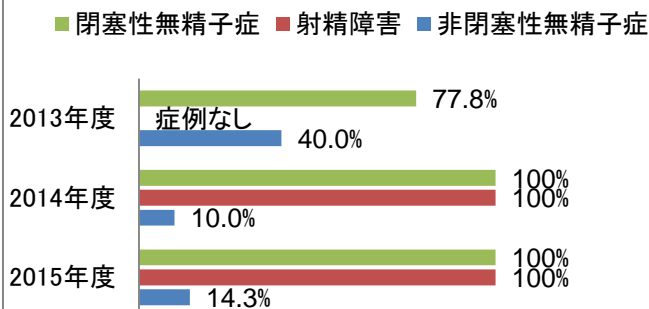


体外受精の妊娠率



無精子症に対する顕微鏡精巣内精子接種術(MD-TESE)の成績



体外受精の妊娠率 = IVF-ET を行った件数を妊娠数で除した件数

体外受精の多胎率 = IVF-ET で妊娠した件数のうち多胎となった件数

■ 不妊治療への取組みを継続して推進

荻窪病院は不妊治療に積極的に取り組んでおり、産婦人科及び泌尿器科が連携した診療と 2008 年に開設した不妊治療専門のクリニックである「虹クリニック」で体外受精による治療を行っております。

体外受精－胚移植法 (IVF-ET In Vitro Fertilization-Embryo Transfer) とは、経膈的に超音波下で卵胞から卵を吸収し (採卵)、培養器内で精子を培養液の中に加え (媒精) あるいは精子 1 個を卵子内に直接注入し (顕微受精)、受精して分割を始めたものを選別し、受精卵を子宮内に移植する方法です (胚移植)。

胚移植時の方法としては、そのままの胚 (新鮮胚) と凍結した胚 (凍結胚) を使う方法があります。

体外受精における妊娠率は 3 ヶ年で平均して 27.7% の妊娠率を記録しており 2015 年度は平均値を上回る結果となりました。

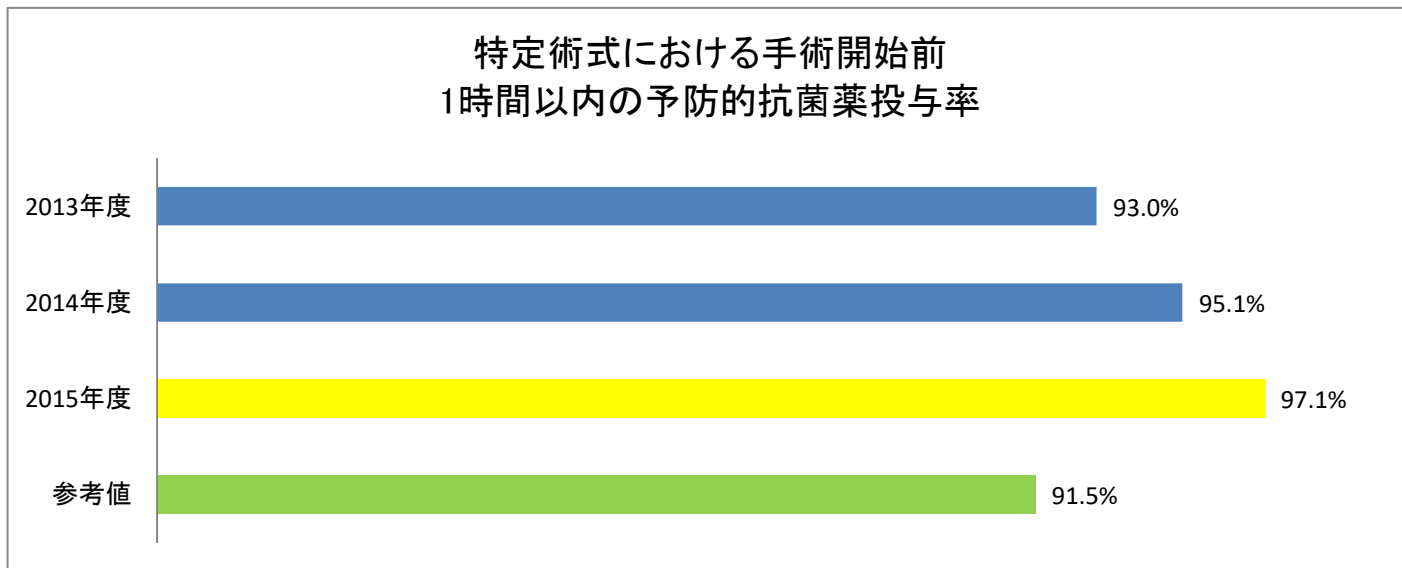
MD-TESE とは男性不妊治療で行われる手技で無精子症や射精が出来ない男性パートナーから直接精子を採取 (TESE) し凍結保存の上、女性パートナーの卵と体外で顕微受精させ受精卵を子宮に移植する治療法です。一連の治療は荻窪病院の泌尿器科と虹クリニックとで緊密な連携を取りながら実施しています。

日本産科婦人科学会が発表している最新資料 (ART データブック/2012 年度) の妊娠率 (※年齢別妊娠数の全体平均値) を掲載致します。

妊娠率	妊娠率/総治療	妊娠率/総ET(胚移植)
	16.5%	28.8%

不妊治療を専門に行う虹クリニックを 2008 年に開設し、荻窪病院と密接な連携を取りながら診療を行っております。





※参考値：日本病院会 2015 年度 QI プロジェクト結果報告 No11 特定術式における手術開始前 1 時間以内の予防的抗菌薬投与率
参加 342 施設平均値

■ ガイドラインに則り感染症リスクに備える

本指標は、手術後に発生しうる手術部位感染（SSI）の予防に取り組んでいるかどうかを示しております。手術部位からの感染症が発生する事で入院期間の延長とそれに伴う医療費が増加し患者さんへの負担が増すことになってしまいますが適切なタイミングで抗菌薬を投与し、血中及び組織中の抗菌薬濃度を適切に保つ事で予防する事ができます。荻窪病院の数値は 2013 年以前は 60%台を推移していましたが、改善を重ねた結果、現在では特定手術の約 97%において手術開始（切開開始）前 1 時間以内に抗菌薬の投与を行っております。

院内の感染対策は ICT（感染制御チーム）が主に担当しており手指衛生に関する啓発や注意喚起、年 2 回の法定講習など院内の感染症リスクに対する全般の活動を行います。また、中野区と杉並区の医療機関と連携して相互にラウンド（監査）を実施することで感染対策の精度向上に努めています。



2016.2 日本環境感染学会での発表の様子
(演者：荻窪病院 ICD 藤井 奨)

特定術式＝冠動脈バイパス手術、その他の心臓手術、股関節人工骨頭置換術、膝関節置換術、血管手術、大腸手術、子宮全摘徐術